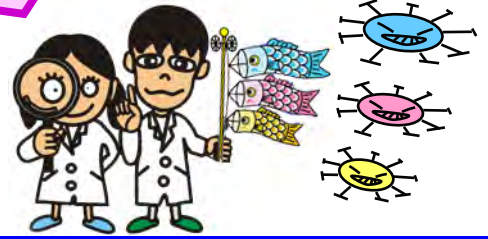
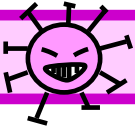


感染症に気をつけよう!

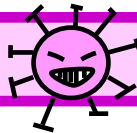
2019年【5月号】

横浜市内の感染症 流行状況

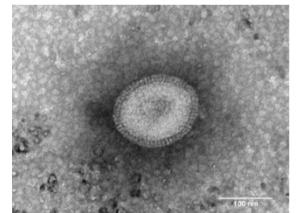


感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
<u>インフルエンザ</u> **	流行	増加	患者数は一度、落ち着いていましたが、4月以降再び増加してきました。【'19.2号】
<u>風しん</u> **	多発	横ばい	30~40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'19.4号】【横浜市保健所】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 市内の学級閉鎖は、3月下旬以降、報告されていませんでした。
- しかし、4月15日からの1週間に小学校3施設、中学校1施設で報告されている状況です。



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6万倍) 撮影:横浜市衛生研究所



- インフルエンザは普通の風邪と違います。38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感(けんたいかん)などの症状が、急に出ることが特徴です。
- もし症状が出てしまったら、咳エチケット**を守り早目に受診してください。

- 熱が下がっても人にうつす可能性があります。一般的には、発症後3~7日間は鼻やのどからウイルスが排出されると言われています。
- 他の人にうつさないためにも、無理をせず、学校**や仕事は休みましょう。



参考ホームページ * : 国立感染症研究所 ** : 厚生労働省 *** : 日本学校保健会

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

